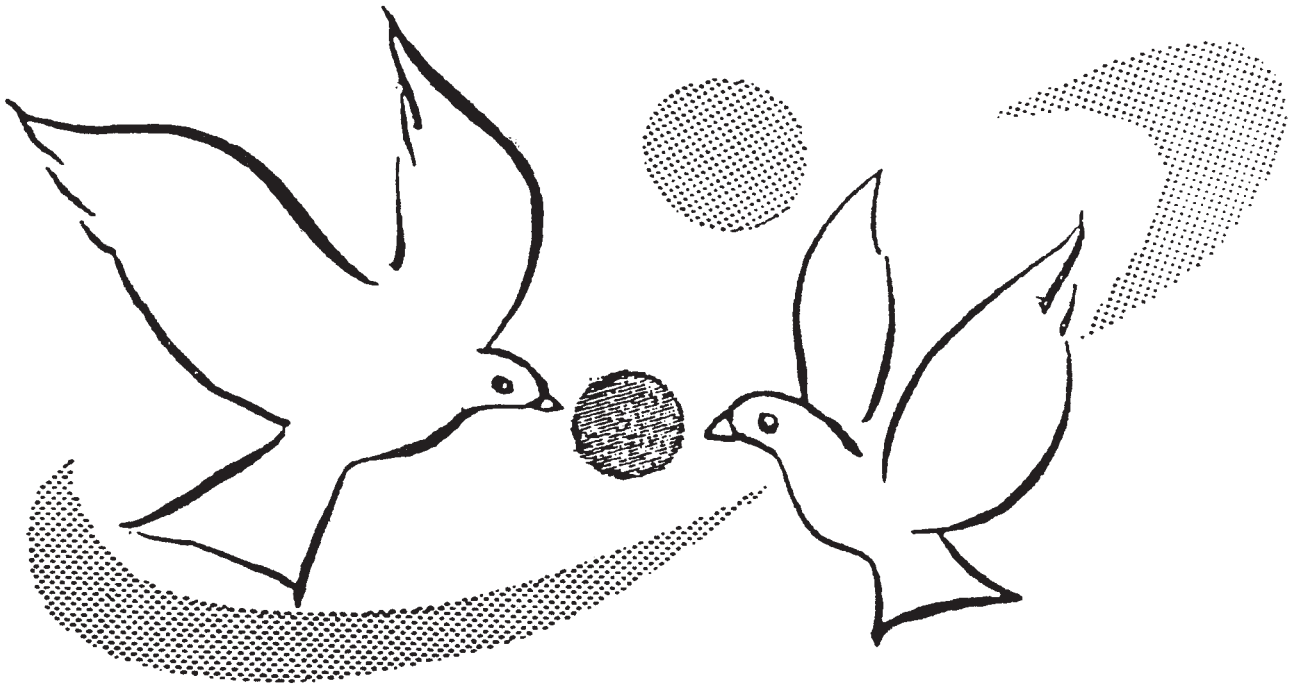
広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



―令和元年度―

（2019年度）

城　陽　市

市の木　梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。

南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。

市の花　花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月７日市制施行10周年を記念し制定。

豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。

市の鳥　しらさぎ

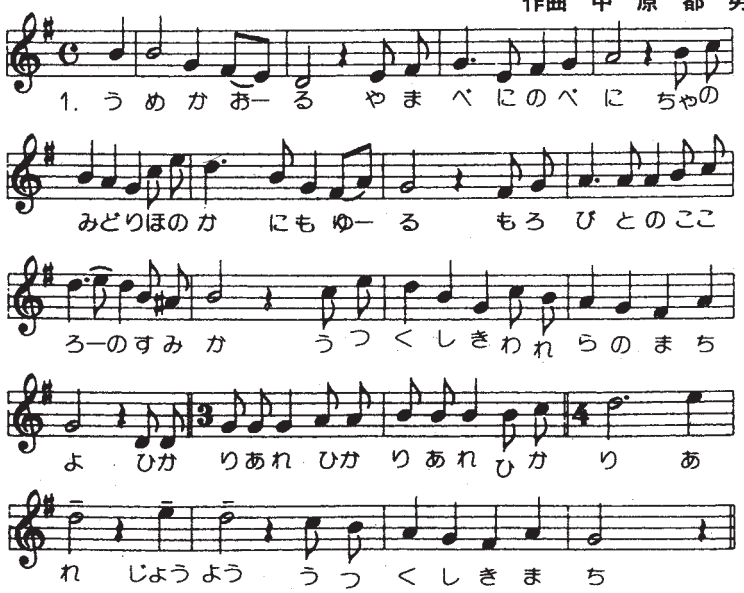
平成19年（2007年）11月７日市制施行35周年を記念し制定。

『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城　陽　市　歌

明るくのびのびと

作詞　龍　村　孟　雄
作曲　中　原　都　男



2．松あおき　鴻の巣山に
鳥啼きて　明るき陽ざし
こだまする　槌のひびきに
ひらけゆく　われらのまちよ
栄あれ　栄あれ　栄あれ
城陽　ひらけゆくまち

3．砂しろき　木津の流れに
黄金なす　稲穂のみのり
山の幸　野の幸さわに
ゆたかなる　われらのまちよ
恵あれ　恵あれ　恵あれ
城陽　ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）２月15日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）

城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行４周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）４月26日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

一、自然を生かし　美しい緑を育てましょう
一、教養を深め　豊かな文化をつくりましょう
一、心身を鍛え　働く喜びを大切にしましょう
一、隣人を愛し　ふれあいの輪を広げましょう
一、秩序を守り　やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（１９８２年）11月７日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言

城陽市役所庁舎　南玄関前

令和元年８月１日（木）

城陽市役所集合

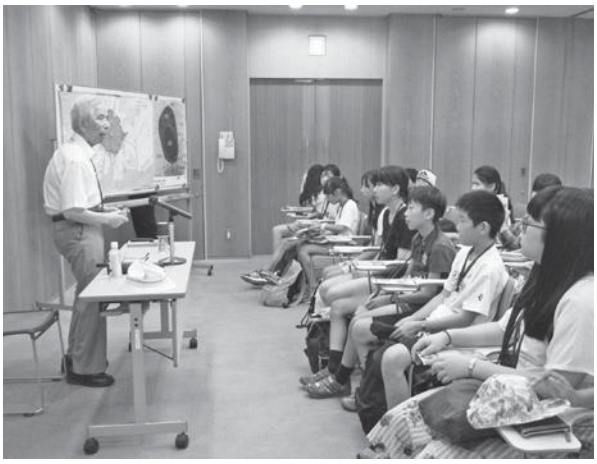
出発（小学生６年生２０名・中学生７名　合計２７名）

昼　食

平和記念資料館見学

資料館地下展示場・情報資料室見学

被爆者講話（井口健氏）



旅館　到着

入浴

夕食等

ミーティング

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消　　灯

令和元年８月２日（金）

旅館出発

↓

広島平和記念公園到着

原爆の子の像

↓

原爆死没者慰霊碑

↓

原爆ドーム

↓

爆心地

↓

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

↓

広島風お好み焼き体験（昼食）

↓

広島市出発

↓

城陽市役所帰着

↓

解　散

目次

広島派遣団に参加して思った事　久津川小学校　6年　植出乙倭　1

平和がいつまでも続きますように　久津川小学校　6年　里日和　1

平和のために　古川小学校　6年　大野光稀　2

平和の大切さ　古川小学校　6年　髙橋柊音　3

戦争から教えられたこと　古川小学校　6年　辻出優奈　5

戦争のおそろしさ　久世小学校　6年　門田夕芽　6

なぜ戦争は起こったのか　深谷小学校　6年　浜崎航基　7

広島に行って学んだ事　深谷小学校　6年　平山陽太　7

戦争の悲惨さ　深谷小学校　6年　武藤宰　8

広島に行き学んだこと　深谷小学校　6年　村上颯　9

広島を通して　深谷小学校　6年　森亮毅　10

原爆の恐ろしさ　寺田西小学校　6年　岡崎美佐希　11

二日間で学んだこと　今池小学校　6年　窪田愛莉　12

広島に行って　今池小学校　6年　小谷優花　13

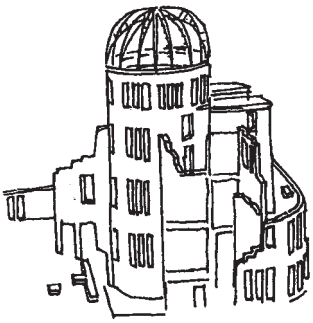
広島派遣団に参加して　富野小学校　6年　今村泰士　14

広島からの伝言　富野小学校　6年　遠藤工　15

原子爆弾のおそろしさ　青谷小学校　6年　白窪夢来　16

広島派遣団に参加して　青谷小学校　6年　菅陽月　16

広島に行って　青谷小学校　6年　谷口椿姫　17
広島に行って　青谷小学校　6年　中尾幸那　18
原爆の恐ろしさ　南城陽中学校　1年　大西桃花　19
原爆について　北城陽中学校　2年　雨山直香　20
広島が教えてくれた原爆の恐ろしさ　北城陽中学校　2年　北本琉衣　21
広島派遣団の活動を通して　北城陽中学校　2年　千葉夏奈　22
広島で学んだ事　同志社女子中学校　2年　中原礼英奈　22
広島で見たもの　南陽高校付属中学校　2年　西村和乃佳　23
戦争の悲惨さ　東城陽中学校　3年　羽口寧々　24



広島派遣団に参加して思った事

久津川小学校　6年
植出　乙倭

私がなぜ広島派遣団に参加したかというと、母から、母が六年生のころ広島に修学旅行で行き、平和の大切さが学べたということを聞き、私も自分の目で見て平和とはどんな事か、戦争とはどんな事か知りたいと思ったからです。

一日目は平和記念資料館に行きました。そこでは、原子ばくだんが落ちた時に出た熱で、ひふがとけている生々しい写真や、他にも見るのがつらくなるような写真が数多くありました。写真を見ると、私の家族が同じようなおそろしい目にあったらどうしようなどと、心が苦しくなりました。

また講話も聞きました。講話では、聞くのがつらくなるような事を聞きました。戦争中は、食事もほぼ食べられず弱音をはいてしまい、まだ生きられる命を捨てて死ぬ人もいたそうです。その話を聞いて、戦争中は、ほぼ死にたいと思ってしまう毎日だったんだと考えると、ここでも心が苦しくなりました。

二日目は広島平和記念公園に行きました。原ばくドームに行った時、ガイドの方から、しょうげき的な事を聞きました。それは、そこで働いていた方全員がなくなられたということです。一生けん命働いている時に、たった一つの原子ばくだんが、何人もの命をうばった事を知り、言葉が出ないくらいすごく悲しかったです。

平和の子の像は、ささきさだこさんをモチーフに作られたと言われています。ささきさだこさんは、原子ばくだんが落ちた当時は、無きずだったそうですが、何年かたったある日、体調をくずし病院へ行くと、白血病と診断され、鶴を千羽折ると病気が治ると信じ千羽折りましたが、願いはかなわず短い一生を終えたそうです。

この二日間を通じて、平和とは、たがいの気持ちを思いやり、戦争のない世界という事を学びました。私には、一人の兄と二人の妹がいます。そして、たくさんの友達がいます。兄弟、友達とのけんかも小さな事とはいえ、戦争と同じだから、けんかの種を作らないように、たがいの気持ちを思いやる事を毎日心がけて、大きな戦争につながらないようにします。

平和がいつまでも続きますように

久津川小学校　6年
里　日和

一九四五年八月六日午前八時十五分、広島はとても晴れていました。そして、その瞬間、二十万という命をうばいました。なぜそうなったのでしょうか。当時の状況は、戦争なんかない「平和」な今ではわかりません。でも、その「平和」の大

切さを、広島は教えてくれました。

目で見てその被害の大きさを教えてくれたのは、当時、広島の特産物などが展示されていた、広島県立商品陳列所、後の「原爆ドーム」でした。この建物は、被爆した当時の姿がそのまま残っていました。そのため、こわれたかべ、むき出しの鉄骨がまる見えの状態でした。なので、本当に原爆の威力はすごかったんだなあ、と思いました。資料館に行くと、被爆当時の道具、写真や、解説がたくさんあり、大ケガをしている方の写真を見ると、その都度胸が痛みました。また、実際に被爆された方の話も聞きました。この時、私は、「今、被爆された方は少ししか生きておられない。だから、とても貴重な体験だ」と、本当に心から思いました。そして、今度は、次の世代へと自分たちが伝えていかなければならない、この悲さんな出来事が消えていかないように、二度とくり返されないように、と強く思いました。

もうひとつ、心に残ったことがあります。それは、「原爆の子の像」です。この「原爆の子」というのは、二歳の時に被爆された、佐々木禎子さんという方のことです。被爆当時は無傷でしたが、九年後の小学六年生のとき、白血病という病気と診断され、入院していました。その入院している途中、折り鶴をずっと折っていました。なぜなら、折り鶴を千羽折れば病気が治ると聞いたからです。でも、その願いは届かずに、八ヶ月間、病気と闘い続けましたが、その命は天にのぼっていきました。そしてその後、「原爆の子の像」という、禎子さんが折り鶴をかかげている姿の像が完成しました。そしてその像の周りには、数え切れないくらいの折り鶴がかざられていました。これを見て私は、「たくさんの人がこの原爆のことについて考えているんだ」と感じ、感動しました。

そして、私がみなさんに伝えたいのは、二度と同じようなことをくり返してはいけないということと、戦争以外の方法で問題を解決させるということです。「戦争」という方法を使っても、利益などあるはずがありません。だから、「話し合い」という方法で問題を解決してほしいのです。

そして、くり返し言いますが、「この出来事を次の世代へと受け継いでいき、この出来事を消させない・平和のバトンをいつまでもつないでいく」ということが大切だと思います。そして、少しでも「平和」ということに貢献できるようになりたいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。このことは、一生忘れません。

平和のために

古川小学校　6年
大野光稀

私が広島派遣団に参加した理由は、戦争の恐ろしさを知らなかったので、派遣団に参加すれば知ることができると思ったからです。

広島につくと、木や人がたくさんでビルもたくさんあり、にぎやかな感じで、こんなところに原爆が落ちたのかという、

信じられない気持ちになりました。
　ですが、資料館に行くと気持ちが変わりました。そこにはボロボロの服やかばん、真っ黒になった三輪車にお弁当、さらには、当時の様子を表わした、血まみれの人が歩く絵や、黒い雨にうたれた後の症状の写真などの、血の気が引くような物がたくさんありました。それを見た時、私は、これを当時の人は直に見たりしていたのかと思うとぞっとしました。
　次に被爆体験者のお話では、１９４５年の８月６日に原爆が落ちた時は、空襲警報が解除されたのに、Ｂ29から原爆が落ちてきたそうです。その時は雲一つない快晴の空で、８時15分に空がピカッと光り、キノコ雲が発生したそうです。そして一しゅんにして大火傷を負った人たちがたくさんいたということがありました。
　また、バスの中から見た景色の中に、ボロボロの建物がありました。それは原爆ドームという建物です。原爆ドームは原爆が落とされたところから一番近い建物だったそうです。この建物の周りには、がれきが残されていて、原爆ドームの中は鉄のパイプで建物全体が支えられていました。それに、原爆のせいなのか、ところどころ黒や茶色にサビていました。そしてこの中にいた当時の人は、原爆にまきこまれてみんな死んでしまったそうです。他にもにげおくれた人は、みんな死んでしまいました。ですが、にげられても、その後に放射能をふくんだ黒い雨や、ケロイドなどの後障害に苦しむ人も大勢いたそうです。
　戦争が終わっても苦しむことがあり、どうしてこのようなことがおきるのだろうと思いました。
　原爆ドームを見た後は平和記念公園に行って、平和の子の像に折りづるをささげました。この平和の子の像のモデルとなったサダコさんは、12さいで原爆による病気のせいで命を落としてしまったので、かわいそうだなと思いました。そして、病院でずっとつるを折って病気を治そうとしていたことに、生きようというサダコさんの気持ちが伝わってきます。平和の子の像の周りには、とてもたくさんの折りづるがささげられていました。
　私達も、平和のために出来ることを考えることが大事かもしれないと思いました。今は何も出来なくても、大人になったら何か役に立てるかもしれないと思いました。
　原爆、戦争は、何もしていないふつうの人も、ただ人の役に立っている建物も、ふつうの生活も、あっというまにうばってしまいます。その一個が原因で何千、何万の人がいなくなってしまいます。もう二度とこのようなことが起こらないでほしいと思いました。

平和の大切さ

古川小学校　６年
髙　橋　柊　音

昭和二十年、８月６日午前８時15分、原ばくが投下。約二十万人の命がいっせいにきえていきました。私はそのこと

を広島で学びました。

七十四年前、多くの人たちが死んでしまった。その中の1人、佐々木禎子さんに、私は興味をもったので、平和記念資料館で調べてみました。佐々木さんは原ばくが投下された時は、無きずでした。しかし小学校6年生の時、体調をくずし、白血病としんだんされて12歳で短い生涯を終えました。佐々木さんは折りづるを千羽折れば病気が治ると聞いていたので、折りづるを折り続けました。けれど、なくなってしまいました。佐々木さんの同級生の人たちなどが、記念の像をつくろうと呼びかけ、各地から寄せられたぼ金によって、像が完成しました。私も、そこへいきました。そこで、思ったことがありました。この像は、死んでしまった佐々木さんをわすれないため。二どと原ばくが落ちる事なく、争いをなくすためだと思いました。

そして、私が一番かわいそうだなって思ったのが、被ばく体験者の人の話でした。戦争は、人殺し。戦争にいった人たちは、みんな、戦死。すべてが、くるしみだった。くうしゅうの毎日で、学校にいっても、勉強ができなかったとのことです。

また、私がおどろいたことが、二つあります。一つ目は、原ばくで死をのがれても、後いしょうは残り、それでくるしみ、死んでいった人も多数いることです。死をのがれたのに、かわいそうと思いました。

もう一つは、被ばくした人に水を飲ませると、死にいたるということです。初めきいた時は、なんでなんだろうと不思議に思っていましたが、調べると、水を飲ませると、被ばく者は、ほっとし、きん張がとけて、亡くなっていったのではないかといわれているのを知り、びっくりしました。こういう理由を知っておくのも、とてもいい勉強になりました。

また、皮ふにやけどをし、ケロイドになる人たちも、かわいそうだと思いました。

被ばく体験者の人の話を聞いていて、一番よく言っていた言葉がありました。それは、「あの時はもう、地ごくだった」という言葉です。私はそれを聞いて、その時は、どれだけ大変だったのかと思いました。被ばく体験者の人の話を聞いて、いろいろな想像がつきました。死と、となりあわせの日々。食事のとれない日々。いやな思い出ばかり。体験者の人は、思い出したくない目で、語ってくれました。その人は、平和について、改めて、考えたと言った。私も、語ってくれた人の話がよくわかりました。

二日間、平和について、すごく学べました。原ばくドーム、原ばくの子の像など、初めて知ったこと、発見がたくさんありました。こういう学べるきかいを世界にもつなげ、みんながびょうどうに、平和に生きられる世界につなげていきたいと、本当に思いました。

戦争から教えられたこと

古川小学校　6年
辻　出　優　奈

八月一日から、八月二日まで、私は広島派遣団として広島に行きました。その時はまだ戦争のこわさ、意味などは知りませんでした。

私の頭に一番しみこんでいるのは、肉がたれた人の写真です。その写真は、実際の人の写真で、見た時はゾワッとして、少し気分が悪くなるようでした。他の写真や、ものからも、同じような気持ちになりました。

でも、そんな気持ちになるのに、戦争をする意味が見つかりませんでした。広島だけでもおよそ14万人の死者が出ています。なのに、なぜ長崎にまで原子爆弾をおとしたのか、なぜ軍は、天皇の意見に逆らったのか、過ぎた事なのに、広島に行って、そのようなモヤモヤした疑問が増えていきました。

ひばく者の実際の体験談を聞いたときは、ものや写真を見ただけでは分からなかったことを色々と知ることができました。例えば、ピカッと、光ったときの話では、目の奥に光がつきさし、目を開けられなくなって、目が見えなくなります。また、ピカッと光った後のドカーンッという音で、耳も聞こえなくなって、視野は、目の横に手を置いたときのようなせまさで、前も1m先ぐらいまでしか見えなくなります。そんなじょうきょうでも、まだましな方で、肉がたれ下がっている人やケロイドになっている人もいます。しかし、お医者さんは助けてくれないし、まさにその時は、「地ごく」と言っていました。

ひばくすると、大きなやけどをしたのと同じなので、水がほしくなるそうです。でも、やけどしている所が多いので、し激が強くなったり等して、死んでしまいます。それを知らない子ども等は、川に飛び込み、流れていきます。だから、川は血で赤くなり、遺体があふれた川になるのです。

お話してくださった男性は、言葉には表せないような、当時の苦しみ、つらさを、丁ねいにお話ししてくださり、とても勉強になりました。また、お話をふり返りながら、見学すると、考えが広がり、もっともっと戦争についての関心などが深まりました。

平和記念資料館や追悼平和祈念館では、スクリーンや映像で、体験談が学べました。

色々なかたちで、戦争のおそろしさが学べるので、この学習で分かったことを、私の周りの人等に伝えていきたいと思いました。

戦争のおそろしさ

久世小学校　6年
門田夕芽

わたしが広島に行こうと思った理由は、戦争があったのは知っていたけど、どのような被害があったのかなどあまり知らなく、戦争にあった人はどのような思いをしていたのかなど、色々と戦争のことを知ろうと思ったので、参加しました。

広島平和記念館には、戦争のこわさが分かるものがたくさんおいてあり、それを見るととてもこわくなりました。服が焼けて体にへばりついている絵がありました。想像するだけでもこわいのに、絵で見るともっとこわくなり、いたそうだし、とてもかわいそうだなと思いました。

わたしがもっとこわいと思ったのは、戦争が終わってからでもなる病気です。わたしは、戦争が終わっても生きていたら、もう生きていられると思っていたけど、その後に病気になるかも知れないなんて初めて知りました。その病気で亡くなった人もたくさんおられました。戦争になったら生きられる確率はとても低いことが分かりました。戦争になったら病気にもなるなんて、とてもこわいと思いました。子どもでも病気になって、かみの毛がぬけたりして亡くなったとも書いてありました。大人でもかわいそうだけど、子どもが亡くなるなんて、これからの人生は長いのに、とてもかわいそうだと思いました。

そして、原爆ドームには戦争のすごさが分かる光景がたくさんありました。原爆ドームの周りには、たくさんの破片が落ちていて、原爆のおそろしさがとても良く分かりました。

被爆された人の話は、すごくおそろしくかなしいのに、原爆の話ができるなんてとてもすごいし、家族を失っても生きていけてすごいと思いました。

折り鶴をつるしにいったとき、たくさんの折り鶴がつるしてあって、とてもすごかったです。でも、それくらい、いや、それよりももっとたくさんの被害があったんだなと思いました。わたしは、なぜ、広島に原爆が落とされたのかなんて、考えたこともなかったし、たまたま広島に落とされたんだと思っていたけど、アメリカはじっくり選んで広島に決めたそうです。そう思えば、選ばれなかった都道府県はとても幸せなんだなと思いました。わたしは、そこまでして原爆を落とさなくても良かったんじゃないかなと思いました。

わたしは、広島に行ったことでたくさんことを学びました。原爆一つで何の関係もない人の命がうばわれ、家族が悲しみ、何一ついいことがないのに、原爆を落とすなんて最悪だなと思いました。今でも戦争をしている国があり、その人々は苦しんでいるかも知れないと思うと悲しくなります。わたしは、世界が一つになり、平和になればいいのになと思いました。

なぜ戦争は起こったのか

深谷小学校　6年
浜崎航基

ぼくは、八月一日、二日の二日間「城陽市平和のための広島派遣団」の一員として広島県へ行きました。この事業に参加しようと思ったきっかけは、「広島昭和二十年八月六日」という本を読んだことがきっかけです。この本を読むまでは、戦争が起こったことや、原爆のことは、あまり知りませんでした。でもこの本を読んでからは、少しずつ戦争についての知識が増えてきたので、行ってみたいと思ったので、参加しました。

一日目は、平和記念資料館に行きました。資料館には、きのこ雲の写真や、実際に原爆で亡くなった人たちが着ていた服やズボン、当時持っていた持ち物が展示されていました。ぼくは、それを見て、原爆とは、こんなに恐ろしいものなんだと思いました。なぜなら、展示されていた服は、とてもボロボロで血がにじんでいたからです。

その後、実際に被爆された方の講話を聞きました。その人は、中学二年のとき、被爆したそうです。原爆が落ちたときは、目がつき抜けるくらいの閃光がはしっていたそうです。服はビリビリに破け、筋肉は垂れ下がるくらいの威力だったそうです。ぼくは、この講話を聞いて、想像するだけで、その当時の様子が、まるで目の前にうかんでくるように感じ取れました。なぜなら、筋肉が垂れ下がった体なんて、痛くて痛くて耐えることができないと思ったからです。

二日目は、原爆ドームに行きました。テレビや写真で観るよりも、近くでみた方が一番迫力が感じられました。なぜなら、鉄骨がむき出しになったまま、残っている状態だったり周辺にがれきが散乱していたからです。

この二日間を通して、ぼくは、戦争について新しく発見できたものがあったと思います。アメリカは、どうして原子爆弾をつくったのだろう、どうして、アメリカは、人々の暮らしをうばったのだろう、そう思いました。これからも、戦争の無い世の中をつくっていくのは、ぼくたちだと思いました。

広島に行って学んだ事

深谷小学校　6年
平山陽太

ぼくが、この広島派遣団に参加した理由は二つあります。一つ目は、友達が、広島に行って原ばくなどのことを学ぶといっていたから、ぼくも行こうかと思ったからと、もう一つの理由は、「はだしのゲン」を見て、行ってみたいなと思ったからです。

1日目は、平和記念資料館を見学しました。そこには、とけたビンや原ばくの大きさがわかるものや、原ばくが落とさ

れた後の写真や、こげたお弁当箱などがありました。ぼくは、この写真や、じつ物などを見てみて、たった一つの原ばくによって多くの人がぎせいになったんだなと思いました。町の人たちは、原ばくの熱によって、ひふが垂れ下がったり、ひふにケロイドとして、あとが残ったりしていて、ぼくは、それを見て、とても怖く感じました。

被ばくされた人の講話によると、原ばくの落ちた日はとても晴れていたそうです。しかもこのころは、20才になると軍に行っていたそうです。しかも、男性の学校の先生は、全員兵に行っていたそうです。敵のひこうきが来たら、すぐにぼうくうごうにひなんしていたそうです。ぼくたちのために講話してくださった人は、その原ばくを体験した時は、とても、怖かったのだろうなぁと思いました。

家で折った折りづるを、夜に、班のみんなで束ねて、次の日の2日目に、さだ子さんの原ばくの子の像にささげました。その像の所にはたくさんの折りづるがあって、ぼくは、広島の人たちなどには、原ばくのことをわすれてはいけないという意しがあるのだなと思いました。折りづるをささげた後に、平和のともし火を見に行きました。このともし火には、いろんな意味があるんだと思いました。

その後には、原ばくドームを見に行きました。原ばくドームは、残っているのは骨組みと、すこしのコンクリートだけだったので、原ばくはすごく怖い物だと改めて思わされました。原ばくが落ちた時には、30人ほど働いていたそうです。

そして、2日目の最後には、広島風おこのみ焼きを食べました。お好み焼きを作るのは、初めてだから、とてもドキドキしました。ひっくり返すのはとてもむずしかったです。

ぼくは、広島に行って、原ばくが落ちた時に自分がそこにいたとしたら、死んでいただろうなと思いました。

戦争の悲惨さ

深谷小学校　6年
武藤　宰

ぼくは、城陽市の代表として広島に行きました。ぼくが広島に行くことになったきっかけは、学校でチラシが配られ、参加費は二千円と、とても安く、先生がオススメをしてくれて、かるい気持ちで行きたいなと思ったからです。

1日目は、資料館と地下展示室に行き、講話を聞きました。資料館は一度家族で行っていたが、今回は、派遣団として行っていたので見方や考え方が違いました。資料館がリニューアルされてから、置いてある物も全然違ったし、とてもインパクトがあり、戦争、原爆の悲惨さが分かりました。講話では、実際に被爆した人の話を聞けて、とてもリアルで、こわかったです。しかし、戦争がいかに、にくいことかが、よりせんめいに伝わってきました。夜のミーティングでもしっかりとみんな戦争のことを学ぶことができていたし、1日目はとても、勉強することができたと思います。

二日目は、原爆ドームに行きました。原爆ドームでは、爆

心地からはなれていたが、原爆はすさまじい力だということが身にしみて伝わってきました。原爆ドームのまわりにはがれきなどがあり、当時の風景がよみ返ってきました。その後には爆心地に行きました。爆心地は今、病院になっており、この上空、５００～６００ｍで原爆が爆発したとは思えない風景でした。

その次に、追悼平和祈念館に行きました。そこでは、当時の広島が描かれた、絵などが置いてあり、とてもこわかったです。さらに、スクリーンに被爆した時の日記などからイメージしたものが映っていたり、被爆した人のテープなどがあり、真剣になって聞いていました。その正面の図書館のようなところでは、パソコンを使って被爆体験者の話を聞くことができました。さらに当時の映像や、写真なども見ることができ、講話より分かりやすかったです。そこでは、「ハダシのゲン」が置いてあり、一度読んだことがあったのですが、資料館や講話などの話を思いだして読むと、この本の中身が分かってきて、とてもおそろしかったです。

そして、城陽に帰るときに、折りづるのタワーが見え、みんなが平和のために動いてくれているのだということが分かりました。

ぼくは初め、かるい気持ちで行った広島が、こんなにも戦争などについて学ぶことができるとは思いませんでした。日本は世界でゆい一の被爆国として、核兵器０への世界をよびかけていかなければならないと思いました。この１ぱく２日は、ぼくの心に刻まれる２日間でした。

広島に行き学んだこと

深谷小学校　６年
村上　颯

ぼくは、二〇一九年、八月一日、二日に、広島派けん団の一人として、広島に行きました。

最初の方は、原子力爆だんと聞いても、とても強い爆だんだと思っていました。ですが、平和記念館に行ってみると、色々な人が書いて残した絵や、その時にとられた写真などを見て、とてもおどろいたり、きょうふ、悲しみなどの様々な気持ちになり、早くここをはなれたいとも、思ったりしていました。ここで、そのような気持ちになるということは、当たり前で、でも、この気持ちを他の人に伝えるためにも、もっとここで、見たり聞いたりしようと、しっかり考えていました。

だけど、考えれば考えるほど、想像すればするほど、悲しみの他に、アメリカに対するいかりがわいてきました。しかも、原爆の被害を受けたのは、食料はなく、苦しんでいて、アメリカには何の被害も与えていない、ただの国民であり、広島で14万人の人が、何にもしていないのに、死んでいったと思うと、とても、ばかばかしい気持ちになりました。

14万人もの命をうばったものを使いながらも、戦争は、終わらなかったけれど、この14万人の死は、意味があるのかないのかと考えると、ぼくは、あると思いました。なぜかとい

うと、もし、原爆が落ちずに、戦争を続けていたら、日本は負けていたと思う。そこで、負けていたら、今までの兵たいさんの死は、何だったのか、そして、勝ったとしても、何にも利益はないし、戦争などする意味がないと思いました。

そして、原爆の子の像でさだ子さんの話を聞き、この話を世界中の人に聞いてもらい、原爆がどういうものなのか、原爆が落ちて、何が起こったのかを、たくさんの人に知ってもらいたいと思いました。なにしろ、たくさんの人があんなにたくさんのおりづるを折っていて、その一万羽をはるかにこす量の一羽一羽に平和になりますように、二度とこのようなことが起きないようにとの心からの願いが込められているからです。

でもぼくがおどろいたことは、他にもあります。原爆が落ちた時と比べると、広島の街はとてもきれいで、とてもいい所だったことです。原爆が落ちた時は、もう死んだ土と言われるほどであり、草や木が生えないと言われていた土地とは大ちがいだったからです。

ぼくは、この二日間を、忘れることはないでしょう。そして、核へいきという物じたいを消したり、北朝鮮みたいな国を全てなくして、みんな平和に、戦争をなくして、くらして生きたいし、日本のような国をもう二度と作らないでほしいと、心から願います。

広島を通して

深谷小学校　6年
森　亮毅

僕がこの広島派遣団に参加した理由は、学校で配られたプリントを見たからで、自主的に参加しました。その時は、「友達もいるし」という軽い気持ちでした。しかし、平和のつどいで、被爆体験者のこう話を聞き、軽く考えていた自分はいなくなりました。

そして当日、市役所に集まり、バスに乗り、サービスエリアに入り、またバスに乗り、楽しい時間をすごしました。そして、平和記念資料館につき、見学をしました。そこで目に飛びこんできたのは、目をふさいでしまうような写真、絵などの展示物で、どう表現したら良いのか分からない物だらけでした。僕がそこで思ったのは、これは、まだ「写真」なんだという事です。この写真が実際に動いて、その時の空気や音、それが聞こえたならば、生き残っていても、いつでもすぐに頭の中にうかんでくる、そんな気がしました。

そして、被爆者のこう話を聞いた時には、それまでに見た、写真などが頭にうかびました。そのこう話は、生々しく、聞いているだけで、身ぶるいするような話でした。

その後、旅館につき、おふろ、夕食などを済まし、次の日のミーティングをしました。部屋にもどると、にぎやかでした。

二日目は、まず、広島平和記念公園に行きました。そこでは、原爆死没者いれいひに、花をささげました。その後、原爆ドームや爆心地などに行きました。

お昼ご飯は、広島風お好み焼き体験をしました。楽しく、おいしい物をつくる事が出来ました。

今回の体験を通して、思った事が、三つあります。

一つ目は、日本も加害者だと言う事です。もちろん原爆を落とされ、広島も、長崎も、くちゃくちゃになりました。しかし、工場では、武器を作っていました。攻げきをするために作っていたのです。

二つめは、戦争、原爆は、「こわいもの」と考えていたけど、数々の遺品などから、そこにも、ちゃんと命があったと言う事も思いました。

三つ目は、どれだけ戦争をしても、勝っても、負けても、一切良い事がないと言う事です。

最後に、一つだけ思う事があります。小さなけんか、それが友達同士なのか国同士なのか、どんなきぼでも、けんかはあると思います。しかしそこで、一方的に攻めるのではなく、お互いの意見を取り入れなければならないと思います。そうする事で、「平和」に少しでもちかづけると思います。

原爆の恐ろしさ

寺田西小学校　6年
岡　崎　美佐希

私が広島派遣団に参加した理由は、友達にさそわれて、自分自身も、原爆の事は良く知らないから、行ってみようと思ったからです。平和のつどいに出席した時に原爆を体験した方の話を聞いて、原爆で亡くなった人達は、どのような姿で亡くなってしまったのかを聞いただけでも恐ろしかったので、資料館へ行って、亡くなった人の思いや、気持ちを知りたいと思い、参加しました。

広島平和記念資料館へ行って心に残ったのは、亡くなった方の顔が、焼けて垂れている写真を見たことです。被爆後、顔のほおの部分が垂れ下がっていて、全身が真っ赤になり、亡くなっていく姿が写し出されていました。それを見た私は、「自分がこの場に居たら怖くて足がすくんでいて、ケガをしていたら痛くて動けなかったなぁ」と思いました。でもその中で、自力で生きぬいた強い人達がたくさんいたと知りました。他にも、やけどで顔がぐしゃぐしゃになっていたり、体の各部分がケロイドになっている人達もいました。ケロイドというケガは、治す時に沢山の針でぬって治したのです。それがとてつもなく痛くて、「こんなことをするなら死んだほうがましだ。」という人もいたそうです。

焼けこげてボロボロになった服や、溶けた三輪車なども展

示されていて、原子爆弾の強さを思い知りました。原子爆弾の強さというのも、原子爆弾が落とされた場所へ行った時に、「原子爆弾はだいたいあそこのビルの三つ分の高さで爆発したんだよ。」と説明してもらった時に、「とても高い所で爆発したのに、この町がひどい姿になるなんて、原子爆弾の威力はこんなに強いのか」と思うような強さでした。そして、原子爆弾が落とされた真下にいくと、体全体が「ゾワッ」とし、とても怖かったです。

原子爆弾が落とされたのは１９４５年８月６日午前八時十五分です。最初は京都も落とされることになっていましたが、京都には神社が多いからやめようという理由で、広島に落とされたそうです。他にも、広島には連合国軍の捕虜収容所がないと思われていたためとも言われています。最終的には広島、小倉、長崎の順番でこの三つが候補地として残り、投下された日の午前七時十五分の時点で天気の良い広島に落とされる事となり、午前八時十五分、投下されました。

私はこの感想文を書く時に、怒りと悲しみが出てきました。怒りとは、なぜ広島、いや、日本に原爆を落とさないといけなかったのか、戦争はやらなければいけなかったのかという事。悲しみとは、あんなにひどい姿でたくさんの人々が亡くなられたという事。だから今ある命を大切にして、生きていることがどんなに幸せかをよく考えながら生きていこうと強く心に決めました。

この二日間を通して戦争への考え方が変わったので、それをみんなに伝えて、この世界を平和にしたいです。広島派遣団に参加できて良かったです。ありがとうございました。

二日間で学んだこと

今池小学校　６年
窪　田　愛　莉

私が広島派遣団に参加した理由は、二つあります。一つ目は、学校でチラシをもらったからです。二つ目は、応募する前から、戦争や原爆のおそろしさを本などで見て、実際に行って、見たり聞いたりしたいと思ったからです。

一日目は、平和記念資料館に行きました。黒こげになった服やお弁当、三輪車がありました。私は、自分の思っていた以上に、原爆とは、黒こげになるくらいおそろしい核兵器なら、その被害を受けた人はとてもつらかったと思いました。次に、実際に被爆された方からの話を聞きました。原爆の落ちた後は、草木が生えなかったり、原爆の落ちたしゅんかんは、きれいな青空がまっ暗になって、黒い雨が落ちてきたことなど、いろいろなことを教えていただきました。

夜のミーティングでは、私が一羽一羽に願いをこめて作ったつるを、班のみんなでたばねました。その後、みんなの班の思いなどを発表しました。この1日では、気になっていたことや、知らなかったことを知ることのできた貴重な1日となりました。

二日目は、原爆ドームや原爆の子の像を見に行きました。原爆ドームは、原爆が近くに落とされたのに、その形のまま残っているのがすごいと思いました。

次に原爆の子の像を見に行きました。私は心を込めて作ったつるをかざりました。いろんな人たちが作ったいろんなつるや、つるで文字などが書いてあるものを見て、すごいと思いました。

お昼の広島風おこのみ焼作りでは、きじがうすくてびっくりしました。具材もたくさん入っていてとてもおいしかったです。

私はこの二日間、広島に行って原爆や核兵器のおそろしさを学びました。私は、世界中でも戦争は起こらないでほしいし、原爆や核兵器もこの世からなくなってほしいと思いました。これからも世界がずっと幸せであることを願います。

広島に行って

今池小学校　6年
小谷　優花

私は友達にさそわれて広島派遣団に参加しました。今まで、あまり戦争や原爆のことを考えたことはありませんでした。

一日目は、資料館に行きました。音声ガイドを聞きながら、すすんでいきます。そこには、ボロボロになった服、手がきの文字、写真もありました。ボロボロの服を見て、「これを人がきていた。」と考えると、こんなにボロボロだったら、きていた人はどうなったんだろうと、とてもこわくなりました。写真もたくさん展示されていました。大きなやけどをしている人、ほうたいをまかれている人、自分がこの人たちだったら生きていけたかなと考えてみました。もちろん、とても痛いと思います。でも、それ以上に、自分は悪いことをしていないのに、どうしてこんな目にあわなければいけないのだろうと思うと、私はたえられないと思います。とても心が痛かったです。

講話も聞きました。話を聞いていると、体験した人が自ら話すと、当時がどんな感じだったのかよく分かると思ったし、原爆を知る人もふえるだろうから、続けてほしいと思いました。

二日目は、原爆の子の像に折りづるをささげました。とてもたくさんあって、一羽一羽に思いがこもっているんだなと感じました。多くの人が原爆について学んだんだなと思うと、私がよろこぶことじゃないと思うけど、うれしいなと思いました。また、慰霊碑には花をささげました。花もたくさんあって、中にはなくなった人の名前があると聞いて、たくさんの人の命が入ってるみたいですごいなと思いました。正面から見ると、いろいろな建物が一度に見られて、よく考えられたデザインだなと思いました。

原爆ドームにも行きました。くずれてはいたけれど形は残っていて、すごいなと思いました。中には、くずれたかべなどが下一面にありました。爆心地にも行きました。本当にここに原爆が落とされたのか、というくらい、あとがなくておどろきました。

広島風お好み焼体験では、とてもていねいに教えてくだ

さって、とてもわかりやすかったです。食べ方もちがうし、めんも入っていて、いつもとちがうかんじで楽しかったし、おもしろかったです。

私は広島派遣団に参加することによって、平和の大切さ、戦争のこわさを学ぶことができました。そして、今どれだけ幸せな生活をしているかもわかりました。他校の人とも交流ができて、参加してよかったと思うし、いろいろなことを知る事ができ、いい体験になったと思います。

広島派遣団に参加して

富野小学校　6年
今村　泰士

ぼくが広島派遣団に参加した理由は、以前から歴史に興味があり、実際に広島をおとずれて戦争や原爆のおそろしさ、平和の大切さを学びたいと思ったからです。

一日目は、平和記念資料館と被ばく者の方のお話を聞きました。平和記念資料館では破れたり焦げたりした衣服や弁当箱、被ばく者の遺品や高熱で溶けたかわらなど色々な物が展示されていました。被ばくしたビンはぐにゃぐにゃに溶けていてこわかったです。原爆でやけどをした人や放射線を受けて病気になった人の写真を見ました。資料館で見たものは原爆のおそろしさが伝わってきて、戦争は絶対してはいけないと思いました。

被ばく者の方のお話で特に印象に残ったのは、当時の子どもたちは家族とはなれてそかいをしていたという事です。もしぼくがそかいしたら、家族とはなればなれになるのはとてもさみしいだろうし、食べ物が十分に無くていつもおなかを空かせているのはとてもたえられないと思います。今のぼくたちは、好きな時に好きなものを食べることができて、毎日家族といっしょにすごせて幸せだと感じました。

ほかに印象に残ったのは、原爆の熱線を受けて大やけどをして、着物の柄が皮ふに焼きついたり、皮ふが垂れ下がったりしている人がいたという事です。考えられないくらい、びっくりして、あまりにもひどい状況に悲しくなりました。

二日目は、原爆ドームと原爆の子の像と、原爆死ぼつ者いれいひに行きました。原爆の子の像では、みんなで折った折りづるをささげました。原爆ドームはたくさんのがれきが落ちていて、原爆のい力が強かった事が分かりました。原爆ドームを被爆したままにしておくのは、とても大切だと思いました。なぜなら、「核兵器」「戦争」は絶対にしてはいけないという事を後世の人々に伝えるためです。

原爆死没者いれいひから、平和の泉、平和の灯、原爆ドームが一直線に見えました。ぼくが特に心に残った風景です。祈念館では亡くなられた方の写真や年れい、名前を調べる事ができました。自分と同じくらいの年れいの子どもや赤ちゃんの写真もあり、もっと生きたかっただろうなぁと思いました。被爆の時の状況を夢中になって聞き、とても勉強になりました。

今回の広島派遣団に参加して、戦争のおそろしさについて学び、二度と戦争はしてはいけないと改めて思いました。戦争は人々を不幸にするだけだと感じました。そしてこの事を、これからも未来の人々に伝えていかなければならないと強く思いました。

広島からの伝言

富野小学校　6年
遠藤　工

ぼくは、母にすすめられて、八月一日、二日の二日間、広島派遣団に参加しました。この広島派遣団は「平和について考えること」を目的とした企画です。この二日間では、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、広島平和記念公園などに行きました。その中で最も印象に残ったのは、平和記念資料館です。

平和記念資料館には、こげていて、色が分からなくなっている衣服や、肉がとけている骨の山の絵などが展示されており、見たしゅんかん、とてもこわいと思いました。こげている三輪車を見た時は、小さい子が乗っていた事を想像してしまい、悲しい気持ちになりました。また、肉がとけている骨の山の絵は、今まで見た事もない光景で、とても恐ろしかったです。なんであの時、日本は戦争をしたのだろう、と思いました。

資料館地下展示場には、図書室がありました。そこで、たまたま目について読んだのが、「はだしのゲン」です。その本の名前は聞いた事がありましたが、読んだ事は無かったので、今回初めて読みました。読んでみると、戦争や原爆の事が書かれていました。まだ少ししか読めていませんが、戦争や原爆はこわいものだなと思いました。

また、二日目に行った広島平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑からは、平和の灯、原爆の子の像、原爆ドームが全てきれいに見える事にも感動しました。原爆の子の像の近くには、たくさんの折りづるがあり、色んな人が平和を祈ってくれているんだなと、うれしく思いました。また、外国の人もふくめて、たくさんの人が公園をおとずれていました。もっと多くの人に来てもらい、原爆について知ってもらう機会になれば良いと思います。

この二日間、広島でたくさんの事を学びました。戦争や原爆のこわさや悲しみをまだ知らない人、次世代の人たちに伝えていきたいと思います。

原子爆弾のおそろしさ

青谷小学校　6年
白窪　夢来

私は広島に行って、原子爆弾はほんとうに危ないおそろしいものだとわかりました。広島に行く前は、「おそろしくてこわそうだなぁ」と思っていなかったけど、広島に行って、原爆はおそろしくてこわいものだとわかりました。

一日目は、平和記念資料館に行きました。そこでは、やけおちた服や三りん車などがあり、かわいそうでしかたがありませんでした。私がびっくりしたのは原爆ドームのことです。原爆が落ちる前と後を見ると、ショックでかわいそうな気持ちになりました。次に、ひ爆者のお話をききました。かわいそうにしか思えませんでした。私は、今は平和であんしんの生活だと思いました。二どとこんなことがおきてほしくないです。

そして夜のミーティングでは、折ってきたつるをリボンで束ね、平和へのきもちをこめたメッセージをかきました。

二日目は、平和記念公園に行きました。原爆ドームの前にきて、ドームじゃないみたいだなぁと思いました。

さいごに、お昼ご飯は広島やきを自分で作りました。見ためがちがい、びっくりしました。でもすごくおいしかったです。

私が一ばん心にのこったのは一日目の平和記念資料館です。じっさいに見て、おそろしいとあらためて思いました。今は、すごくすごく平和な生活をしているとかんじました。なにもわるいことをしていないのに、原爆をおとすのはやめてほしいと思いました。

私は広島にきていろいろなことを学べて、べんきょうになりました。知ることができたので、このことをいろんな人につたえて、もうこのようなことがおきないようにしていきたいと思いました。原爆のおそろしさや命の大切さなどを、大切にしていきたいとしっかりと思いました。私はこの二日間は、大切な二日間だと思いました。平和がこれからもずっとずっとつづいていったらうれしいです。

広島派遣団に参加して

青谷小学校　6年
菅　陽月

ぼくが広島派遣団に参加した理由は、戦争ってどんなものか知りたいと思ったのと、原爆ドームを見てみたかったからです。

一日目は、平和記念資料館と資料館地下展示場を見に行き、被爆体験者の話を聞きました。

資料館には、原爆でとけてドロドロになったビンや、ボロボロになった服や、血がついている服がかざってありました。

被爆体験者の話では、原爆についてわかりやすく教えても

らいました。原爆はざんこくだと思いました。
二日目は、広島平和記念公園と原爆ドーム、追悼平和祈念館に行きました。
原爆の子の像に大量の折りづるがありました。全国や世界中からおくられてきて、たくさんの人が、原爆が落ちた広島のことを考えているのだなと思いました。
原爆ドームは、原爆が広島に落とされた時からずっとそのままにされていて、くずれおちそうだけど残っているのがすごいと思うのと、戦争のこわさがわかりました。
ぼくは、今回の広島派遣団に参加し、自分の目で見て、戦争のおそろしさや、原爆のことを知り、二度とこんな悲げきを起こしてはならない、これから先ずっと未来まで、このことを伝えなくてはいけないと思いました。

広島に行って

青谷小学校　6年
谷口椿姫

私が広島派遣団に参加した理由は、おねえちゃんとおにいちゃんが参加して、とても勉強になったし楽しかったので、行っておいでと言われ、私もきょうみがあったので、参加しました。
8月1日（木）は、広島に着いて、さいしょに平和記念資料館をけんがくしました。すごくこわかったです。入ってすぐ、空気がおもいとかんじました。そして、入っていくと、中にはすごくグロテスクな写真などがありました。いろいろおいてありました。すごく可哀そうでした。
焦げたお弁当箱などが、置いてありました。顔に、小さいガラスが刺さった写真などが置いてありました。そして、血がついた衣服などが置いてあったので、びっくりしました。他にもいろいろあり、それを見て戦争のこわさをリアルに感じました。
そして、8月2日（金）は、原爆ドームと爆心地等にいきました。原爆ドームは、もとは、きちんとした建物だったのに、いまでは、ほねぐみだけだと思いました。そして、折り鶴をささげるときに、平和であってほしいと思いました。
そして、見学が終わって、昼食をたべるとき、広島やきをつくるのが、とてもむずかしかったです。おみせによって作り方がちょっとちがったりするそうです。そして、一ばん自分でつくった広島やきがおいしかったです。
私はこのような体験ができたことは、とても大切できちょうだと思いました。そして、広島派遣団に参加してよかったと思いました。またこのような体験ができるのであれば、参加したいと思いました。
戦争はにどとくりかえしてほしくないと思いました。核兵器を、この世の中からなくしてほしいです。そして広島に行って、しらなかったことを、まなべてよかったと思いました。すごく勉強になりました。このことを、もっともっと多くの人にしってもらいたいというのが私の願いです。

広島に行って

青谷小学校　6年
中尾　幸那

私は、八月一日と八月二日の二日間、「平和のための小中学生広島派遣団」に参加して、戦争や原ばくはとてもおそろしいものだとあらためて知りました。

一日目、まずは平和資料館を見学しました。そこには、思っていたよりも、もっと戦争のおそろしさを伝えるものがたくさんありました。その中でも、印象が強かったのは、やけてボロボロになった小学生たちの服と、ひばくした人の体じゅうに斑点ができていた写真です。やけてボロボロになった服を見ていると、その服を着ていた人たちは亡くなってしまったのかなって想像してしまったので、とてもざんこくだなと思いました。ひばくした人にできていた斑点は、内出血によってできたもので、その原因は原ばく症だそうです。ひばくした時は、にげることができて、死なずにすんだと思っても、原ばく症になってしまったことで、後から亡くなってしまう人もたくさんいたそうです。顔にたくさん斑点ができていた人たちの写真は、失礼だけど、見たくなくなるようなこわさがありました。

次に、ひばく者の方の講話を聞きました。昭和二十年八月六日午前八時十五分に、広島に原子ばくだんが落とされました。

「ピカッドーン」

と、とても大きなばく発音がしたそうです。にげおくれたら死んでしまうし、全身やけどの子どもが水をほしがっていたり、てっこつの下じきになってにげられない人が

「たすけてー」

とさけんでいたり、頭がわれたように血が出ている人がいたりして、まるでじごくのようだったそうです。そして、日本は完全に戦争に負けました。戦争をしてもいいことなんか一つもなくて、後悔しか残らないはずなのに、なんで戦争をしてしまったのかなと疑問に思うし、本当に悲しいことだなと思いました。

二日目は、広島平和記念公園をまわって、慰霊碑と原ばくドーム、原ばくの子の像を見ました。私は、原ばくドームを見たとき、少しびっくりしました。原ばくが落ちたのに建物の形がきれいに残っていたからです。でも、下にはがれきがたくさん落ちていたので、ひどかったんだなとあらためて感じました。

お昼ご飯には広島風お好み焼きを作って食べました。いつも食べているのとはちがって、めんが入っていました。作り方も全然ちがって難しかったけど、食べるとおいしくて、楽しかったです。

広島に行って、たくさんのことを学べました。戦争は本当にだめだし、これからも絶対にしてはいけないと思います。ずっと平和が続いてほしいです。

原爆の恐ろしさ

南城陽中学校　1年
大西桃花

私は広島派遣団として、広島に戦争のことを学びに行きました。なぜ私が参加したかというと、以前に兄が参加して、いろいろ学べたし、ためになったと話していたので、行こうと思ったからと、六年生の時に戦争の時代を学び、もっとくわしく知りたかったからです。

広島には二日間行きました。

一日目の最初は資料館に行きました。資料館に入ると、やぶれた服や、かみの毛がなくなった子どもや、黒こげになった自転車や、やけどを負って苦しむ人の写真など、体も心も傷を負っている人たちの写真がありました。それを見たとき、同じ人間なのに、どうしてこの人たちがこんな目に遭わないといけないのかと感じました。

私が想像していた何十倍の人が原爆で亡くなったと知ったときは鳥はだがたち、心が痛くなりました。亡くなった人々の家族や親せきの悲しみや苦しみをとても強く感じました。私だと、大切な人が死んでしまうと、心が折れてたえられないと思います。なので、本当に原爆を体験した人々は強かったんだと思いました。

この資料館で、私は、二つ心に残ったものがあります。一つは、放射線によってかみの毛がぬけてしまった写真です。その写真を見たしゅん間は、あまり興味がなかったけど、その下の文章を読むと、原爆から放射線がでるのかとびっくりしました。そして、その写真は、子どものかみの毛がない写真だったので、こんな小さい子が、なんでこんな思いをしないといけないのかと強く思いました。そして、心も痛かったです。

もう一つは、血のついたボロボロの服です。そこにあったのは実物です。これを見た時、頭の中でひっしに逃げている人々の姿が浮かびました。私は、命がけでひっしに逃げている人々の気持ちも少しずつ分かってきました。すると、だんだんかなしくなってきました。

二日目は、原爆ドームと原爆の子の像の近くに行って、見学をしました。原爆の子の像にはつるをささげたサダコさんがいました。その周りには多くの千羽づるがありました。

次に原爆ドームの近くに行きました。とても多くのがれきがあったり、今にもくずれそうなかべだらけでした。この原爆ドームには、実際は原爆は落ちていません。近くにある病院の上に実際は落ちました。ちがう場所に落ちているのに原爆ドームに落ちたような姿でした。とてもその場にいるだけでこわかったです。

私はこの二日間で原爆・戦争のおそろしさが分かりました。日本は戦争の時より今は平和です。でも他の国は今も戦争が行われています。なのでいっこくも早く世界が平和になってほしいです。

原爆について

北城陽中学校　2年
雨山直香

今回私は、原爆についてもっと詳しく知りたいなと思い、広島派遣団に参加しました。

私は今まで戦争や広島・長崎の原爆の事は、テレビや本、インターネットなどでしか学んだことがなく、実際に見るのは初めてでした。

一日目、広島に入り、原爆ドーム（広島産業奨励館）を見たとき、原爆の威力が思っていたよりも凄くてびっくりしました。

広島に着いてから、平和記念資料館へ行きました。入って一番最初に展示されていた少女のパネルを見て、心が痛くなりました。中には被爆された方々の遺品などが多くあり、パネル展示もたくさんありました。特に心に残った展示が「こげた三輪車」です。子供が三輪車に乗っていたところに原子爆弾が落ち、三輪車は黒くやけこげてしまったそうです。真っ黒になっていて、原子爆弾でこうなってしまったと思うとゾッとしました。

その後、資料館地下展示場と情報資料室へ行きました。情報資料室には戦争や原爆についての本がたくさんあり、とてもためになりました。

情報資料室を見学した後、被爆された方の講話を聞きました。「防空ずきんが焼けて、皮膚がただれていた」「上半身はだかだった人の、背中の皮膚がただれ、血がたれて背中が血一色だった」「子供は背が低いから全身やけど、という子が多かった」「飛ばされた人が頭を石にぶつけてしまい、頭から血がたれていた」など、普段は聞くことが出来ない話などを多く聞かせていただきました。

二日目は、まず最初に平和記念公園内にある「原爆の子の像」を見学し、みんなが持ち寄った千羽鶴をささげました。千羽鶴を入れるガラスケースには、他にもたくさんの鶴があって、皆が、世界が平和になりますようにと思っているのかなと思いました。

その次に、「原爆死没者慰霊碑」へ行きました。そこで私達は、花をささげました。石碑の中には戦没者名簿が入っているそうです。

その後、私達は「原爆ドーム」を見学しました。柵で囲われた「原爆ドーム」は鉄骨がむき出しになっている所が多かったです。又、周りにはたくさんのガレキが落ちていて、生々しかったです。原爆ドームの周りを歩いていると、ある男性が講話の準備をしていたのでお話を聞きました。そこで私は「被爆者」というのは「被爆者手帳」を持っている人だけだと聞き、本当はもっとたくさんの被爆者がいるのではないかと思いました。

最後に「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」へ行きました。そこでは、ラジオ放送を聞いたり、原爆についての朗読を聞くことができました。

この二日間で、私は原爆について、たくさん知る事ができ

ました。今、私たちができることは、核兵器廃絶のための署名など小さい事だけど、皆ですれば、きっと廃絶することができると思うので、頑張っていきたいです。又、これからも原爆について学びたいです。

広島が教えてくれた原爆の恐ろしさ

北城陽中学校　2年
北　本　琉　衣

私は広島派遣団に参加して、原爆の恐ろしさを学びました。

一日目、バスで広島の町中を通り、平和記念資料館へ向かう途中、鶴がかざられているガラス張りの建物がありました。そこには、まだ少しだけど、下の方に鶴の層ができていました。それは「おりづるタワー」と言って、原爆の悲惨さだけではなく、広島の復興や未来、希望を感じる場所をつくりたいという思いからつくられたそうです。

その隣には原爆ドームがありました。私はテレビや写真などでしか見たことがなかったので、とても迫力がありました。

平和記念資料館に着くと、音声ガイドを持ち、中へ入っていきました。中は少し照明が暗くなっていて、戦争の悲しさ、恐ろしさを表しているようでした。中にはたくさんの写真や、原爆で焼けてしまった服やお弁当、三輪車が展示されていました。その中でも一番心に残っているのは、少し焼けてしまっている名札です。なぜなら、親は自分の子を探しているのに、顔はひどいやけどをしているので、自分の子かどうかも分からないくらいなので、この名札もなければ、自分の子でも分からないと思うと、この名札があって本当に良かったなと思ったからです。

次に資料館地下展示場・情報資料室に行き、被爆者の方が描かれた絵や、戦争に関する本を読みました。被爆者の方が描かれた絵は、写真を見るより戦争の恐ろしさが伝わってきました。小さな子も、こんな恐ろしい風景を見ていたのだと思うと、私だったらきっとたえられないと思います。

次に被爆者の方のお話を聞きました。その方は、ぱっと空を見あげた瞬間、原子爆弾が「ピカー」と光り、目もあけていられなくなるぐらいまぶしい光とともに「ドーン」という、近くで爆発したような大きな音がしたそうです。そのせいで目が見えにくくなり、耳も聞こえにくくなってしまったそうです。私は、原爆がこんな風に人を傷つけることを知らなかったので、びっくりしました。

次の日は初めて原爆ドームを近くで見ました。原爆ドームをよく見てみると、下にがれきがたくさん落ちていて、窓もなく、階段は溶けていました。私は、ここまでその当時のまま残っているとは知らなかったので、すごいなと思いました。

私がこの2日間で一番心に残ったことは、原爆の子の像に折り鶴をささげたことです。なぜなら、原爆の子の像には、たくさんの折り鶴がささげられていたからです。この一人の女の子に、こんなにもたくさんの人が、たくさんの鶴を折り、ささげるということは、きっと皆が原爆の恐ろしさを知り、

もう二度と戦争がおきないようにと願っているからだと思います。

私は、世界中が戦争のない平和な世界になってほしいです。

広島派遣団の活動を通して

北城陽中学校　2年
千　葉　夏　奈

今回、私が広島派遣団に応ぼしたのは、友達にさそわれたからでした。怖いかもしれないと、少しためらいましたが、良い経験になるのでは、と思い、一緒に応ぼしました。

広島に着き、はじめに印象に残ったのは、やはり原爆ドームでした。原爆ドームは思いのほか近く、バスの中からでもはっきりと見えました。このドームの中で、この公園の中だけで、いったいどれだけの人が犠牲になったでしょうか。また、自分の足下でも犠牲になった方がいるのかもしれないと思うと、悲しく、切なくなりましたが、同時に、このことを後世に残すのは自分なのだという責任も感じました。

他に印象に残ったのは、資料館でした。資料館では、実際に原爆が落とされた時の被爆者の持ち物や、いろいろな場面をとらえた写真がたくさんありました。

その中に、1枚、男性の写真がありました。はだは白く、目は深い闇のように暗く、まるで生気を失っていました。原爆や戦争は、こんなにもいろいろなものを人からうばってしまうのかと、強く、心を動かされました。

もう一つ、印象に強く残った写真がありました。ちぢれたかみ、ただれたひふ、思わず目をそらしてしまう写真でした。けがをした人が何人も集まっていました。写真の横には、撮影した人の言葉がありました。写真を撮るのに長くためらったこと。ようやく1枚、シャッターを切れたこと。その言葉の最後には、「まるで、地獄だ。」とありました。その一言には、短いながらも、戦争のむごさが込められていました。

今回私は、この活動を通して、たくさんのことを経験できました。戦争は人から何をうばってしまうのか。人をどう変えてしまうのか。直接広島へ行かなければ経験できなかったことがたくさんありました。今回体験したことを伝えるのは自分なのだと、責任を持ち、帰れたと思います。

広島で学んだ事

同志社女子中学校　2年
中　原　礼英奈

今回私は、派遣団の一員として沢山のことを学びました。私は実際に行く数日前まであまり乗り気ではありませんでした。何故、広島に行かなければいけないのか、よくわかっていなかったからだと思います。ですが、今はこの様な経験が

出来て、とても感謝しています。この経験を通じて私は、原爆について深く考え、きちんと向き合う事が出来たからです。

一日目の出来事の中で一番印象に残っている事は、資料館見学です。資料館では様々な展示を見ました。びりびりに破れた服、全身火傷を負っている人の写真。その他目をそむけたくなる様な展示が沢山ありました。その中に、爆風によって大半が吹き飛ばされたレンガの壁の一部がありました。あの頑丈なレンガが、いとも簡単に壊されてしまうと知って、ただ圧倒されるばかりでした。それなら人間は、どうなってしまうのかと恐ろしくなりました。

他に、特に印象に残っているのは、展示されていた数枚の絵達です。それは、実際に広島で被爆なさった方々が描かれたものです。その方々が感じられた苦しみや、悲痛な心の叫びが、ありありと聞こえて来るようでした。それを見て私は更に、原爆の悲惨さを痛感しました。

一日目の夕食後、ミーティングを行いました。そこでは、行動班のメンバーがそれぞれ平和や、原爆についてどう思っているのか、全く違う視点からの意見を沢山聴けました。それはとても良い刺激となりました。

二日目、原爆の子の像を見に行きました。そこには、とても沢山のカラフルな折り鶴がありました。日本に平和を願っている人はこんなにもいるのかと、少し感動しました。その後、原爆死没者慰霊碑へむかいました。その慰霊碑には、

「安らかにお眠り下さい。過ちは、繰り返しませんから。」

と、書かれています。それを見て、私は原爆や戦争はするべきではない、そう感じました。

原爆は、何も悪いことをしていない十四万人という人々を、たった一発で消し去ってしまいました。もう二度と、被害を出さないために、私達に何ができるのでしょうか。私はこの広島派遣での経験を通じて、それを考える事が一番大事だと、思いました。

原爆から七十四年たって、被爆体験を語れる方は年々少なくなっています。なので、この経験を通じて何を学んだのか、どう思ったのか、考え直し語り合う事が、平和な世の中にしていくための第一歩です。

最後に、この様な機会を与えて下さった、全ての方々に御礼を申し上げます。

広島で見たもの

南陽高校附属中学校　2年
西　村　和乃佳

私は今回、広島派遣団に参加して、前までに広島や戦争、原爆について考えていたことや、思っていたことが大きく変わりました。

私が今、あの2日間をふり返ってみて思うことは、学校の授業で習ったような「人がたくさん死んでしまった。」の一文の重みを、今までにない位に重たく、改めて感じさせられるような2日間でした。

1日目は資料館へ行きました。資料館に並んでいた写真や絵、実物の一つ一つに、私は「こんなことがあったのか。」と衝撃と恐怖の気持ちでいっぱいでした。その中でも特に覚えているのが「背中のケロイド」という写真です。私はこの写真を見た瞬間、はっと息をのみました。これが人間の肌なのかと疑うくらい赤く腫れ上がった肌と、悲しそうにうつむく人の写真がすごく印象的でした。それ以外の展示物も、数十年前の広島がこんなことになっていたのか、たった爆弾一つでこんなことになるのかと、信じられないことだらけでした。

2日目は平和記念公園へ行きました。そこには、原爆によって破壊され、建造物としてほとんど原形をとどめていない原爆ドームの姿がありました。瓦礫のようにつみ上げられたレンガの山。ここでどんなことがあったのかは一目瞭然でした。そんな悲惨さの分かるような原爆ドームと、公園内の数々の銅像を見て、そのころの人々がどれだけ平和を願っていたかが、すごく心に伝わるようでした。千羽鶴やメッセージの多さが、人々の願いを訴えているようにも見えました。また、一つ一つの建造物の配置やデザインにも、人々の想いや工夫が込められていると知り、とても驚きました。

私は戦争をしたことがなければ、実際に目で見たことがあるわけでもありません。私の周りにも経験したことのある人はほとんどいません。これからは今まで以上に、戦争を自身で体験した人は減っていくと思います。でもこのように、資料館や原爆ドームが残されていますし、城陽市でもこのようなプロジェクトを通じて、もっと戦争について知り、自分の考えを持つ人が増えればいいと思います。

今回私が原爆ドームや資料館に行って、周りの人に、戦争はこの地球が抱える大きな問題だと伝えなければいけないと思いました。

これから生きる全ての人に幸せが訪れることを願います。

戦争の悲惨さ

東城陽中学校　3年
羽口寧々

今回、私が派遣団に参加した理由は、担任の先生に勧められ、将来、社会教師になりたいし、戦争や原爆について詳しく知りたいと思ったからです。

広島市内に入った瞬間、私はとてもびっくりしました。たくさんの建物がたち並び、とてもにぎわっていて、七十四年前に大きな爆弾が落ちた街のようには思えません。でも原爆ドームや資料館内の展示物を実際に目で見て、「本当にあった出来事なんだ。」「思っていた以上に悲惨だ。」と思い、とても心が痛みました。資料館内の展示物は、穴の空いたボロボロの服、真っ黒に焼け焦げた三輪車やお弁当など…。生々しい物がたくさんあり、ただただ衝撃でした。私たちと同じ人間の行為とは思えなかったし、信じたくなかったです。開いた口がふさがらず、手足が震えてしまうほどの悲惨さでし

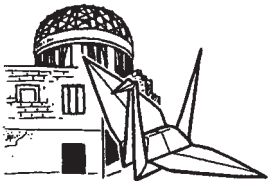
た。

次は、被爆者の講話を聞きました。私の年齢とほぼ変わらない十四歳で被ばくした方です。何事もない日常に、いきなり見た事もない爆弾が落ちてくるなんて、考えただけで背筋が凍りそうです。

原爆ドームも間近で見ました。自分の目で実際に見ていて、こんな鉄骨の建物までも崩してしまうほどの威力なのかと思いました。

色々な原爆に関わる資料や展示物を見て、やはり戦争はやってはいけないことだと強く思いました。物資だけでなく数えられないくらいの尊い命をなくしてしまう戦争。日本の人々は悲しい思いしかしていないのに、原爆を落とすなど、やっていいはずがありません。戦争や原爆を次の世代へ語り継がなければいけない意味がわかりました。戦争はたくさんの大切な物を失ってしまう恐いことです。だからこそ、戦争は思っている以上に悲惨であり、二度とやってはいけないということを伝えなければならないのです。戦争のことを知らない周りの人たちに、色々なことを学んできた私たち自身が伝えていかなければならないと思いました。

今回の広島派遣団への参加で、今まで知らなかったことを、たくさん学べたし、戦争や原爆についてもっと深く考えるきっかけになったし、知らない人たちにも伝えていきたいと思いました。こうして、学ぶ場を作ってくれた市役所の方々や、参加を勧めてくれた先生に感謝したいです。



編集・発行　城陽市　企画管理部　秘書広報課

〒610-0195　京都府城陽市寺田東ノ口16・17
電　話　０７７４－５６－４０５０
ＦＡＸ　０７７４－５２－１１７５
ＵＲＬ　http://www.city.joyo.kyoto.jp/
E-mail　heiwa@city.joyo.lg.jp

再生紙を使用しています。